

平成 27 年 8 月 4 日
SPARC Japan セミナー
企画ワーキンググループ

平成 27 年度 SPARC Japan セミナーの活動計画について

1. 平成 27 年度の方考え方

平成 27 年度の SPARC Japan セミナーは、「革新的知識創生の最前線（仮）」というテーマで、学術情報流通の再構成を考えるために新しいトピックスを中心にとりあげる。

ディシプリンベースでの研究活動を意識した議論をすることを念頭に、人文社会系の研究評価や、対象分野を明確にした Data Driven Science の展開をとりあげる。また、研究活動の支援・協働という観点から、研究者自身のコミュニケーションツールとして脚光を浴びて久しい ResearchGate の実態と、大学図書館の研究者支援についてもとりあげる。いずれのテーマも、従来はやや周縁的な活動であったものが、今後大きな転換・飛躍をとげて次世代の学術情報流通の一翼を担う可能性を秘めており、セミナーで紹介すべき動向である。

2. 企画（案）

| 日程 (予定) | テーマ | WG 担当 | 備考 |
|-----------------|---|-----------------|--|
| 第 1 回 9 月（末） | ○人社系の研究支援と OA ならびに図書館のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・人社系の研究評価、根本的にその評価とは ・研究者がどのように評価されたいのか ・要らないと言われているけどどうする？話したい人に話させる ・大学の評価としてのアウトプット ・深く掘り下げる前段階をテーマとして取り上げる | ◎駒井 三根、横井、市古 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 階会議室 9/7、8、10、28、30 仮予約、その他の日程であれば所外会場検討 ・ 土俵が多い（国内、海外、言語の違い）ため、過去のセミナーで議論が噛み合わなかった ・ JST の人社系 WG（有本先生主導）から講師を呼ぶ案 ・ 理系側からアプローチ |

| | | | |
|---|---|-------------------------|---|
| <p>第2回 10月第4週 (10/19-23) (OA サミット 2015)</p> | <p>○Data Driven Science</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究データの取り扱い ・第4の科学 ・地磁気のデータを使う | <p>◎蔵川 林、星子、梶原</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ JST Data DOI 研究データ実験プロジェクトとかぶらないように ・九州大学 池田先生(大学)、京都大学 能勢先生(e-science)、極地研 南山氏(図書館) |
| <p>第3回 (11~12月)</p> | <p>○ResearchGate</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今更聞けない ResearchGate」 ・研究者の本質的な要求に答えることで図書館の対応を探る ・ ResearchGate と Social Media | <p>◎三根 駒井、横井、林</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 招聘有り？ |
| <p>第4回 (1~2月)</p> | <p>○次世代研究者サービス(リポジトリの次)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成功例、失敗例にも学ぶ ・ 研究活動をどう支援するか (一緒に学ぶスタンス) | <p>◎星子 市古、梶原、蔵川</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ リポジトリ委員会と棲み分け(図書館総合展 11月発表) |